



# IDEC 横浜 支援成果 事例集

～ものづくりコーディネーターが企業と育んだ～



公益財団法人横浜企業経営支援財団（IDEC 横浜）

発行 平成 30 年 3 月

# 横浜ものづくりコーディネーター事業のご紹介

主な支援メニューは、次のとおりです。

## 1 技術連携支援

大手企業や中小企業との商談の場を設けて技術連携を促進します。また、大学や研究機関との共同開発、特許取得や利用、共同研究契約に関する相談、助言をおこないます。

## 2 技術移転支援

大手企業の開放特許に関する情報の提供など、技術移転元企業と中小企業の橋渡しをおこない、経費を抑えながら信頼性の高い製品開発を応援します。

## 3 公的支援施策の紹介

横浜市の融資や補助金、認定制度をはじめ、国や神奈川県の中企業支援施策など、新分野進出、新製品開発などに役立つ様々な情報を紹介し、活用をお手伝いします。

## 4 専門人材等の紹介

技術開発や販路開拓、事業計画の策定など企業の課題に応じて技術アドバイザー、研究者、中小企業診断士、経営コンサルタント、弁理士等の専門人材を紹介します。

## 5 各種セミナーの開催、展示会の出席

大学、研究機関の技術シーズを紹介する産学連携交流サロンや研究会など各種セミナーの開催や展示会を出展つうじて販路開拓の支援などをおこなっています。



# IDE C横浜 支援成果 事例集

～ものづくりコーディネーターが企業と育んだ～

---

## 【はじめに】

IDE C横浜では、平成 24 年度より、市内製造業の新技术・新製品開発、販路開拓等を支援するため、企業OBなどを「ものづくりコーディネーター」として、企業の現場を訪問し、シーズ・ニーズや課題を収集し、企業マッチング、アドバイスなどを行っています。

平成 29 年度の企業訪問件数は、約 850 件に達します。また従来の「ものづくり関連」に加え、製造業のIT・IoT活用の推進に向け、「ソフトウェア関連」の企業訪問も強化しています。このたび、平成 27 年 3 月に「事例集」を発行したのに続き、第 2 段として、「支援成果 事例集」を発行することとなりました。

コーディネーターがきっかけとなり、「大手企業とのマッチングを通じ、成約に至った」、「新技术開発に向けた助成金を獲得できた」など、成果・結果にこだわった事例を、(1) 大手連携、(2) 中小連携、(3) 産学連携、(4) 助成金獲得、(5) 販路開拓、の 5 テーマに分けて紹介しています。

企業にとって、限られた経営資源（人、モノ、金、情報など）を補うため、各社ともに“上手に”IDE C横浜の支援メニューを利用させていただいております。具体的には、「価格競争から脱却するため企業連携により、自社商品を開発した」、「人手不足の対策で製造ラインを改善した」など、多くの企業の方にとっても共通の課題を掲載しています。

この事例集をお読みいただき、市内中小企業の皆様をはじめ、大手企業や大学などの研究機関の方々も、IDE C横浜を利用し、オープンイノベーションの促進になれば幸いです。

最後になりましたが、本事例集の発行にあたりましてご協力いただいた企業の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成 30 年 3 月  
公益財団法人 横浜企業経営支援財団  
(IDE C横浜)

# IDE C横浜 支援成果 事例集

～ものづくりコーディネーターが企業と育んだ～

## INDEX

横浜ものづくりコーディネート事業のご紹介	2
はじめに	3
Index	4,5

## 大手連携

事例 1 伊藤園と4年の歳月をかけ、茶殻配合シートを共同開発	6
●株式会社ワンウィル	
事例 2 知財交流会で富士ゼロックスと出会い「開放特許」活用	7
●株式会社ショウエイ	
事例 3 原材料から完成品までの一貫体制で顧客ニーズをカタチに	8
●株式会社中込製作所	
事例 4 大手も注目、「イメージからカタチを創り出す」トータルコーディネート	9
●株式会社アサイ・エンジニアリング	
事例 5 顧客のアイデアを具現化する「開発支援業」を展開	10
●ニイガタ株式会社	
事例 6 EMS企業として一貫体制の特色を生かし、大手企業から受注	11
●藤栄電機工業株式会社	
事例 7 技術力が評価され、JAXA（宇宙航空研究開発機構）との実証実験に参画	12
●デジタルコム株式会社	

## 中小連携

事例 8 排水処理を通しサステナブルな循環型社会を目指す	13
●日之出産業株式会社	
事例 9 企業連携で生まれたファイルシステム「NOUQUE」をさらなる企業連携で製品改良	14
●株式会社キョーワハーツ	
事例 10 横浜に移転、近隣の協力会社の紹介を受け、関係構築	15
●株式会社トッケン	
事例 11 互いの独自の技術の融合により、「管理系システム」が進化	16
●株式会社プレスビット、シンクビジョン株式会社	
事例 12 少量多品種生産の熟練工不足に対応し生産機器の安全効率化へと企業連携	17
●サンコースプリング株式会社	
事例 13 中小企業連携でお互いの苦手分野を補完、受注案件の拡大に	18
●株式会社第一鋳金	

## 産学連携

事例 14	超音波画像装置の用途を拡大、ダイエット成果を“見える化”	19
	●株式会社グローバルヘルス	
事例 15	内製化率を極限まで高めアルミ製品の短納期実現	20
	●株式会社サンエス	
事例 16	デザインを数値化、産学連携で136年目の新たな挑戦	21
	●株式会社キタムラ	
事例 17	社員教育を重視し、驚異的な精度を実現する特殊ワイヤーメーカー	22
	●協立金属工業株式会社	

## 助成金獲得

事例 18	横浜の製造業10社がオープンイノベーションで技術を世界に発信	23
	●YMV（ヨコハマ・メーカーズ・ビレッジ）	
事例 19	歯車生産で精度に絶対的自信、ロボット導入で生産性向上	24
	●光輝化成株式会社	
事例 20	創業100年企業が時代の変遷の中で、200年企業を目指し新技術開発	25
	●株式会社ツジマキ	
事例 21	総合金属加工メーカー、サーボプレスを用いた冷間鍛造で実績	26
	●株式会社三陽製作所	
事例 22	超小型カメラの開発企業、創業時からの支援で成長遂げる	27
	●株式会社おいぬビジョン	

## 販路開拓

事例 23	精密板金加工、デザイナーと連携したものづくりで世界へ技術を発信	28
	●有限会社落合製作所	
事例 24	民間企業主導型が鍵、継続的な地域貢献活動を実現	29
	●株式会社太陽住建	

横浜グローバルものづくり 企業ガイドご紹介	30
-----------------------	----

横浜ものづくりコーディネーターご紹介	31
--------------------	----

# 伊藤園と4年の歳月をかけ、 茶殻配合シートを共同開発

## 事例 1

珪藻土を用いた壁材などを手掛けるワンウィル（中区）と伊藤園が共同開発した「茶殻配合シート」を装着した環境配慮型の自動販売機が2017年7月、完成した。これは2012年11月、伊藤園の工場から排出される茶殻の有効活用に向け、I D E Cが両社をマッチングしたのがきっかけである。

ワンウィルの珪藻土シートに、日本茶飲料の製造過程で出た茶殻を入れて作った。自販機1台当たり、525mmリットル入りペットボトル約160本分の茶殻が使われている。シートには微細な凹凸や孔子によるヒートアイランド現象の緩和効果や、カテキンなど緑茶成分由来の抗菌消臭効果もある。ワンウィルでは今後、同シートの特性をいかし、他用途への展開も検討している。

## オンリーワン技術が オープンイノベーションへ

近年、オープンイノベーションが注目されているが、中小企業が大手企業と対等な関係で成約した事例は少ない。

今回、成約に至った要因を山本倍章・代表取締役は「オンリーワン技術を有することで、伊藤園と対等な立場で共同開発を進めることができた。また、伊藤園の“ここまで要求するのか”という要求度の高い効果検証を繰り返し行うことが、更に自社技術を高めることができた」と考察する。

なお、ワンウィルでは、シックハウス症候群の原因物質の一つでもあるホルムアルデヒ

ド除去スプレーも開発し、中国での販売強化に向け、I D E C上海事務所の支援を活用している。



茶殻配合シートが装着された自動販売機



ホルムアルデヒド除去スプレーを手にする山本社長

株式会社ワンウィル  
横浜市中区日本大通 15 横浜朝日会館 8F  
代表取締役 山本 倍章  
TEL: 045-664-5211  
<http://www.onewill.co.jp>

# 知財交流会で富士ゼロックスと出会い 「開放特許」活用

## 事例 2

ショウエイ（都筑区）は、防滑工事、タイヤ洗浄・修復をメインに手掛ける。建設分野における「防滑・表面保護」に着目し、様々な工法を開発してきた。

そんな同社では、川崎信用金庫と I D E C が共催した「知的財産交流会」で、保有特許の開放を始めたばかりの富士ゼロックスと出会い、「自己修復機能のある防滑塗料」のライセンス契約を締結した。この事例は、富士ゼロックスが国内で約 1 万 4000 件保有する特許ライセンスのうち、中小企業向け知財交流の成約第 1 号となった。

### 危険度を数値化した防滑対策の トータルサポートも

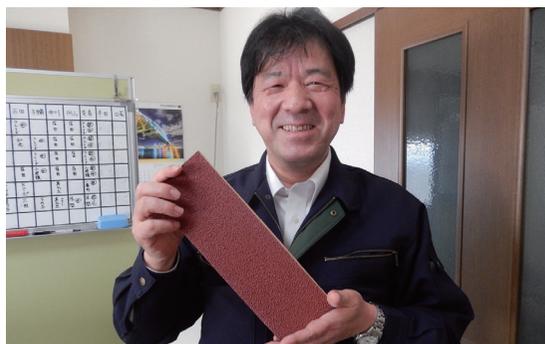
現在、ライセンス契約を結び、同塗料の製品化を進めている。ただ、たとえ完成して建物への施工をするとなると、人手不足感が否めない。そこで今回、化学メーカー出身で塗料用樹脂などの開発経験を有し、同技術に精通する I D E C コーディネーターのサポートにより、作業員不要で時間も選ばない形での製品化を目指している。

「製品化すれば、介護施設や病院、飲食業など、これまで防滑対策の見積り依頼があっても、時間や費用を理由に施工を断念していた分野への提案ができるようになる」と今西昇・代表取締役はと期待している。バリアフリー法に沿った整備が必要な施設に対して、危険度を数値化して場所ごとの防滑対策を行うトータルサポートも提案していく考えだ。

I D E C では製品化に向け、技術開発・評価・販売戦略など伴走型支援を継続していく。



当社がサイトにアップしている防滑工事の案内



開発中の製品を塗布したサンプルを手にする今西社長

株式会社ショウエイ  
横浜市都筑区東方町 1084  
代表取締役 今西 昇  
TEL : 045-949-1790  
<http://www.syouei-inc.co.jp>

# 原材料から完成品までの一貫体制で 顧客ニーズをカタチに

## 事例 3

原材料から完成品までの一貫生産体制。それが中込製作所（金沢区）の特徴だ。スチールの薄鋼板の加工を得意としており、オフィス家具をはじめロッカーや書庫といった箱物板金製品、さらにレジ台などの店舗用什器を製作。要望に応じて、これら製品を一品から受注。工場では 1 日 80 以上の多品目を生産している。

「お客様の“ポンチ絵”ベースから、当社で設計して完成品まで仕上げられる」と日向亮司・代表取締役社長は語る。顧客となるメーカーは通常、加工や塗装など、必要な工程ごとに協力工場に発注している。しかし、同社の場合はワンストップ。自社工場内に塗装設備まで持っているため、すべて一貫して対応できるのだ。顧客からしてみれば、複数の協力工場に発注せずに済むだけでなく、同社で一貫生産するために納期が短くなるメリットも生まれる。

### ガイドブック掲載が大手担当者の目に 留まり大口案件を受注

県優良工場（2012 年）、県モデル工場（2017 年）にも選ばれている。最近では大手企業から、筐体製品の大口受注も獲得した。きっかけは I D E C が発行している横浜企業の優れた製品や技術力を紹介する「横浜グローバルものづくり企業ガイド」への掲載。同社のページが、協力企業を求めている大手企業担当者の目に留まり、I D E C に対して「中込製作所指名でマッチングしてほしい」

との相談が寄せられ、今回の受注につながった。

また、2017 年は塗装設備を刷新したほか、最新鋭のレーザータレパン複合機を導入。素材の穴あけや切断、一部の曲げ加工といったものづくりの最初の工程を自動化し、24 時間稼働が可能になった。積極的な設備投資が大手企業からの発注内容に対応できる体制を整備した結果の現れと言える。今後も顧客の幅広い要望に対応していく構えだ。



工場内



中込製作所社員の皆さん

株式会社中込製作所  
横浜市金沢区福浦 2-7-21  
代表取締役社長 日向 亮司  
TEL : 045-781-1511  
<http://www.nakagome-ss.co.jp>

# 大手も注目、「イメージからカタチを創り出す」 トータルコーディネート

## 事例 4

アサイ・エンジニアリング（磯子区）の浅井伸一・代表取締役は、高性能なロボットやラジコンをはじめ精密な「動くものづくり」のアイデアからコンサルティング、開発設計、試作、量産支援まで、トータルコーディネートできる唯一無二のエンジニアだ。

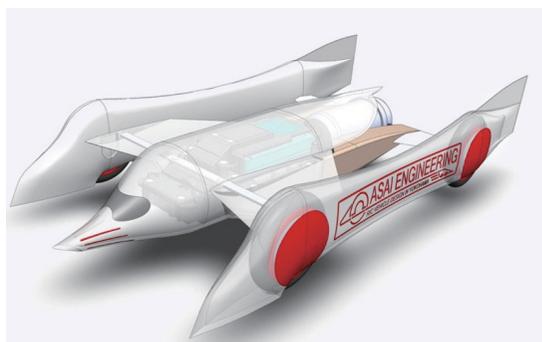
これまで 30 年間で 50 種類を越す商品を世に送り出してきた実績もある模型メーカーで役員にまで昇進したが、常に開発の現場で第一線に立っていたいとの想いで、10 年前に独立。技術を磨き続けている。

### IDEC 支援をフル活用、 大手との面談で自社の強みを再認識

IDEC 利用のきっかけは、顧客開拓に関する経営相談だった。独立後は、設計の請負業務が中心だったが、IDEC では同社の圧倒的な技術力に着目。「自信をもって技術力をアピールし、名前を表に出すべき」とアドバイス。その後、IDEC 主催のロボット講座の講師や、ベンチャーピッチへの登壇を経験し、外部の方々と交流することで、良き理解者・応援者も増えていった。ものづくり補助金を活用し、3Dプリンターを導入したことで、やりたいことをカタチにできる強力なツールにもなった。

さらに民間主催の大手企業とのマッチング会へ IDEC が推薦機関となり、参加。大手企業との面談を繰り返すうちに先方のニーズや、自社の強みも再認識できた。「新規プロジェクトの立ち上げ支援」や「難易度の高

いプロトタイプ開発”を事業の軸にすべきと方向性が固まった。プレゼンに向けた準備も自社の強みの魅せ方のブラッシュアップに繋がった」と浅井社長は語る。大手とも自信を持った交渉を行い、商談も成立。売上も増加し、海外展開の準備も進んでいる。



イメージをカタチに



浅井社長

株式会社アサイ・エンジニアリング  
横浜市磯子区田中 2-5-5  
代表取締役 浅井 伸一  
TEL : 045-773-3225  
<http://asai-eng.co.jp/>

## 顧客のアイデアを具現化する 「開発支援業」を展開

### 事例 5

開発支援業。ニイガタ（鶴見区）の事業を一言で例えると、こう表現できる。単なる試作業でも加工業でもない。最初に「図面ありき」の仕事ではなく、顧客が何をしたいのかをじっくりと聞きながら、同社でそれらを具現化していく。いわば「顧客のアイデアをカタチにする仕事」である。取引先として名を連ねるのは、大学や企業の研究機関、大手メーカーばかり。最先端の研究開発で必要になってくる実験装置などを同社で手掛けている。無論、ほとんどが一品物だ。

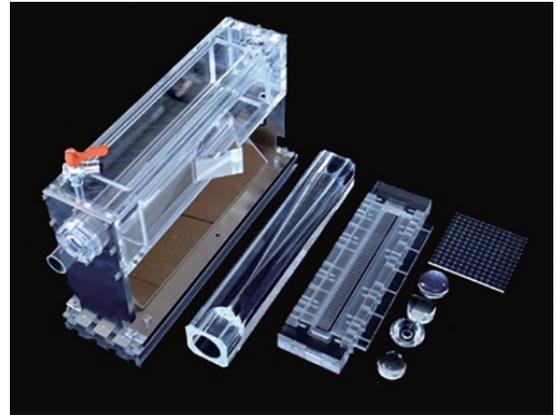
また、最近では計測治具・装置の設計製作事業にも乗り出している。例えば、あるメーカーが研究の中で、自動車のエンジンの内部のオイルの流れ、気体の流れを可視化して検証したいとする。しかし、最適な計測装置や高性能カメラをどうそろえるか。そして実際に目的に合った計測をするには「治具」も必要になる。そこで同社では、開発支援業の一環として、顧客の目的に応じた装置や治具の提案をしているのだ。

### マッチング実現で大手医療機器メーカーから試作品製作を受注

試作品や部品加工も多数受注している。前身は1971年に創業した有限会社新潟彫刻。もともと工業彫刻や部品加工をしていたため、切削加工や研磨は、今でも得意分野になっている。また、ジャンルにとらわれることなく、試作品製作も受け付けている。自社設備だけでは難しい場合でも、常時50社の協力

業者のネットワークを駆使し、対応している。

2017年、IDECが大手医療機器メーカーとマッチング。同メーカーが販売する超音波検査装置を収納して機能的に使える器具の試作品製作を受注し、このほど納入した。



新規事業である流体可視・実験装置の製作



渡辺社長

ニイガタ株式会社  
横浜市鶴見区駒岡 2-12-5  
代表取締役 渡辺 学  
TEL : 045-580-3181  
<http://ni-gata.co.jp>

# EMS企業として一貫体制の特色を生かし、 大手企業から受注

## 事例 6

藤栄電機工業（緑区）は、電子機器、マイコン制御装置、FA関連機器の企画、開発設計から試作、量産までを扱うEMS（Electronic Manufacturing Service）企業として、40年以上の実績がある。ウシオ電機、日本電産トソク、三光機械といった数々の有力大手とも取引がある。

単に請け負い企業として設計や生産を行なうだけでなく、顧客のニーズに応じた支援や、調整検査といったメンテナンス、修理までを細部に渡りワンストップで担う一貫体制が強みで、産業用機器、計測・監視・試験機など電子機器の幅広い分野で顧客の絶大なる信頼を得ている。

### 相手のニーズを直接具体的に聞く機会を積極的に活用

これまでIDECによる大手企業とのマッチング会を、企業ニーズを直接具体的に聞ける場として積極的に活用していた。今回、大手企業からバイオ関連評価装置の技術支援と試作機の設計生産に関し、藤栄電機工業を含めた複数のマッチング先企業の中から、受注先として選定された。

「実際に機器を有効に活用するためのアドバイスや調整、検査、修理までを自社で全て行うことができるのは大きな強みとなっている」と永山修一・取締役は語る。これまで積み重ねられてきた顧客サービスに対する姿勢と顧客ニーズに的確に対応する企業文化が新規案件の獲得につながっている。試作機は、

2018年3月に完成の予定。その後、大手企業によるマーケティング活動を経て、次の量産化が期待されている。



永山取締役

藤栄電機工業株式会社  
横浜市緑区いぶき野 26-9  
代表取締役 若林 直浩  
TEL : 045-983-6601  
<http://www.tohei-ei.com>

# 技術力が評価され、JAXA（宇宙航空研究開発機構）との実証実験に参画

## 事例 7

デジタルコム（中区）は制御系ソフト開発から各種アプリケーション開発までを手掛けるソフトウェア開発企業だ。開発実績は「P S 4 関連開発」のエンタテインメントから、「壁面透過レーダーシステム」の防衛、「カプセル内視鏡」の医療、鉄道・運輸など、多分野にわたる。

I D E C が仲介し、J A X A によるオフィス向けの電力制御システムの実証実験に参画した。

限られた電力を有効利用する小惑星探査機「はやぶさ」の電力制御システムを民生に転用し、ノートパソコンの充電を制御することでオフィスのピーク電力カットの実現を目指す。ノートパソコンのバッテリーがフル充電のままコンセントに接続されていると、無駄が多い。そこで、制御ソフトでアダプターを制御。充電が不必要な場合は遮断し電気料金の安い夜間に充電する等、制御する仕組みだ。

### 高度な技術の習得に加え、社員のモチベーション向上も

参画のきっかけは、「横浜企業とマッチングするような技術ニーズはないか」と I D E C が J A X A に打診。後日、J A X A より横浜企業の照会を受け、同社を含めた横浜企業とのマッチング会を実施。同社の技術力の高さとこれまでの開発実績が高く評価され、参画パートナーとして選ばれた。

「J A X A との取引を通じ、高度な技術の習得に加え、社員のモチベーション向上につ

ながった」と前山浩志・代表取締役は語る。「一般的に離職率の高い業種と言われるが、当社は日頃より、社員とのコミュニケーションを大切にし、食事会やレクレーション会など定期的に開催している」社内環境を整え、開発意欲を高めている。



前山社長

デジタルコム株式会社  
横浜市中区住吉町四丁目 45 番地 1  
関内トーセイビル II 8F  
代表取締役 前山 浩志  
TEL: 045-663-1998  
<https://www.digital-com.com>

# 排水処理を通し サステナブルな循環型社会を目指す

## 事例 8

日之出産業（都筑区）は、微生物の製剤とマイクロバブル発生装置HMB（日之出マイクロバブラー）を利用し、排水処理の世界に革命を起こしている。同システムは、食品工場などの排水処理設備を半分から2/3程度まで省スペース化できるもので、汚泥発生量を減らしメンテナンスにかかる費用・電気使用量を大幅に削減する。また悪臭がしないのも都市部の設備に導入できる大きな特徴だ。

大手食品メーカー、大手工業系企業、公共施設などを中心に、同社の薬剤や排水処理システムを利用する導入先は2,000社を越す。排水が多様化する中、環境浄化型の薬剤やシステムを、排水成分を分析し、その水質ごとにレシピとなる最適な浄化方法を提案することで、取引先からは「困った時の日之出産業」とされている。

### コーディネーターの人脈活用で大手に 食い込む

「IDECに間に入ってもらったことで色々なつながりができました」と、藤田香・取締役。効果が高く革新的なものを開発しても、新規で大手企業に食い込むことは容易ではない。今回、取引先の新規開拓を目的に、大手企業出身のIDECコーディネーターの人脈を活用した。まずは薬剤サンプルからと、定期的にコンタクトを取ることで次につなげていく予定だ。

同社では、過去にも様々なIDECの支援メニューを活用。技術アドバイザーや産学連

携による技術支援、海外特許出願助成のほか、社員が働きやすい環境づくりや地域貢献活動などCSR（企業の社会的責任）システム構築への取り組みも実践し、横浜型地域貢献企業として認定されている。フィリピンへの導入調査や、社員10人ながらも、2年間でアフリカ10カ国22人のインターン生の受け入れ実績もあり、今後、世界で同社の技術を広めていきたいと考えている。



同社が開発したHMB（ヒノデマイクロバブラー）



藤田取締役

日之出産業株式会社  
横浜市都筑区池辺町 3854 番地 ナガセビル  
代表取締役 大林 世一  
TEL : 045-507-3031  
<http://www.hinodesangyo.com>

# 企業連携で生まれたファイルシステム 「NOUQUE」をさらなる企業連携で製品改良参画

## 事例 9

精密プレス加工と金型製作で独自の技術を展開するキョーワハーツ（港北区）は、2014年、2社以上の中小企業が連携し商品開発を目指す中小企業基盤整備機構の「新連携事業」の獲得し、綴じられた書類がファイルのどこからでも抜き差しできる画期的なファイルシステム「NOUQUE（ヌーケ）」の商品化に成功した。

これまでの2穴ファイルでは、いったん他の書類までは外さないと必要な書類が取り出せなかったが、ファイル穴と金具の工夫により一枚の自由な抜き差しを可能にした。IDECコーディネーターは、連携事業の獲得を支援。価格競争に負けない自社製品を得て、新事業に乗り出した。

### 電子化にRFID（Radio Frequency Identifier）の採用を提案

その後、マーケティングを進める中で、ファイル内の文書をクリヤーホルダーに入れて、ホルダーごとに管理できないかという顧客からの要望に対し、コーディネーターが「NOUQUE」にRFID（無線を用いた自動認識技術）の採用を提案した。

専用のクリヤーホルダーにICタグを貼り付け、その中に書類を入れて管理することでRFIDが一瞬でICタグを読み取りパソコンに明細を記録、表示する。税理士、弁護士事務所や、常にカルテの場所を管理する必要がある病院などで市場が期待される。ここでもコーディネーターがRFIDの技術を提供

できる峰光電子（港北区）とのマッチングを提案し、共同開発が成立した。現在「NOUQUE」は、電子ファイルと原本管理を結び付けるシステムへと進化し、展示会出展や各種メディアに掲載されるなど、販路開拓に向けた道を歩んでいる。



抜き差し可能なファイルシステム「NOUQUE」



RFIDが装着された最新「NOUQUE」と坂本社長

株式会社キョーワハーツ  
横浜市港北区高田西 1-5-1  
代表取締役社長 坂本 悟  
TEL:045-593-6116  
<http://www.kyowa-hearts.com>

# 横浜に移転、近隣の協力会社の紹介を受け、 関係構築

事例 10

トッケン（港北区）は、幼稚園や保育園、小学校などにある運動器具・体育器具で、県内唯一の専門メーカーである。介護や養護施設などの製品も手掛ける。「よい子を育てるよい遊具」をスローガンに、同社で製造販売している遊具類は 800 種類以上。

商品の企画開発から、自社工場での材料加工から組立、販売まで一貫して行う。昔と比べ、遊具のニーズも変わり、屋外の遊具よりも、屋内の狭い場所でも楽しめる遊具のニーズが高まっているという。

## 新たな意匠粉体技術の開発が実現

1964 年設立の同社が、東京大田区から新羽町に移転したのは 2012 年。移転当初は、近隣の協力会社探しに苦労した。そこで I D E C コーディネーターが、フレーム溶接加工、ジャンプ遊具向けのバネ製造、縫製メーカーなど、横浜企業を紹介し、今では各社と密な協力関係を構築できている。

また助成金を活用し、最先端の粉体塗装設備を導入する際は設備メーカーを紹介。新しい意匠粉体技術「ジオメトリック・パウダーコーティング」の開発も実現した。静電気の原理を利用し、粉の塗料を金属にくっつける粉体塗装は、耐久性に優れているとされる。ただ、これまでは絵柄などを入れる場合は、表面にざらつきが残るため、精巧さに限界もあったが、新技術により粉体塗装でも美しい絵柄や模様を精巧に表現

することが実現した。

最近では地元の小学生向けに「工場見学会」も実施。地域住民とも友好的な関係を築き、地域に根ざした事業活動を実践している。



設備導入により実現した意匠粉体技術



トッケン社員の皆さん

株式会社トッケン  
横浜市港北区新羽町 575  
代表取締役 森 正子  
TEL: 045-717-8022  
<http://tokken.net>

# 互いの独自の技術の融合により、 「管理系システム」が進化

事例 11

IT企業のブレスビット（南区）は、シンクビジョン（本社：静岡、横浜技術開発センター：神奈川区）が開発した工程管理支援システム「cycleon（サイクロン）」に最適化エンジンの独自技術を提供。両社の技術の融合により、2018年秋をめどに「cycleon」の性能向上に向け手を組んだ。

シンクビジョンの親会社は金型製造の工場を経営。近年は製造技術が急速に進歩する一方でIT（情報技術）も発展し、規模の大小関係なく、CAD/CAMや管理系システムが必須な状態となった。シンクビジョンは親会社が有するこれまでの工場運営の経験を最大限に生かし、多品種・小ロットの製造工程を効率化する、現場発のシステム「cycleon」を製品化。横浜に技術拠点を置くことから、IDECに「開発従事スタッフを探している」と相談し、その後、両社のマッチングへ至ったことが、この取組のきっかけである。

(1)当初の従事スタッフの補完関係から、(2)互いの得意技術を組み合わせさせた製品改版へと関係が深まった。ブレスビットの見積作成支援・生産工程管理システム「Estima+」の

特長として、導入会社に適したシステムへ成長していく機械学習機能と最適化エンジンがあり、他方面に応用可能な最適化エンジンを「cycleon」に採用し、システムを改版する計画だ。

## 得意分野を理解してイノベーションを生み出す

IoT（モノのインターネット）への関心が高まりビジネスモデルも変革。IDECでも、IT・IT・IoT導入支援を目的に、従来のものでづくり企業に加え、ソフトウェア企業への訪問を強化。その過程で両社の得意技術を把握し、今回のマッチングに至った。

ブレスビット 達知剛志・代表取締役は「お互いの得意分野を生かし2次開発的に販路を広げていきたい」と語り、シンクビジョン 本田大介・代表取締役も「相互補完できる形を軸にしていきたい」と、IoTの本質を理解して連携。今後、横浜のものでづくり企業への導入を期待している。両社の得意分野を生かし、新たな発想とともに技術革新が続く。



シンクビジョン・本田社長（左）、ブレスビット・達知社長（右）

### 株式会社ブレスビット

横浜市南区別所1-3-31 静心ビル2F  
代表取締役 達知 剛志  
TEL：045-730-1656  
<http://www.breathbit.co.jp>

### シンクビジョン株式会社 横浜技術開発センター

横浜市神奈川区神奈川2-17-15 第3松田ビル3C  
代表取締役 本田 大介  
TEL：045-548-8593  
<http://www.syncvision.co.jp>